

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像  
自らすすんで学ぶ力を持った子

堺市立 宮園小学校  
校長 小林 朋子

令和6年度 重点目標  
1 子どもの「学ぶ力・学び合う力」を育てる 2 一人ひとりの自己肯定感を高める 3 チーム宮園として 支え合う 高め合う 4 児童1人1台パソコン活用推進

確かな学びの現状  
令和5年度「すくすくウォッチ」(5年生)では、大阪府平均と比べると、基礎基本の定着において厳しい状況にある。そのため、今年度も引き続き、「学ぶ力」の根底となる、基礎基本の学力の定着をめざした取り組みを行う。  
また深井中学校区グランドデザインで設定しているめざす子ども像「自らすすんで学ぶ力を持った子」や文科省提言、「堺市学びのコンパス」の主旨をもとに今年度より本校の研修テーマを『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざした単元・授業づくり』とした。少人数指導の特色を活かしきめ細やかな指導による基礎基本の学力の定着をめざしながら、本校の児童の実態に合った「個別最適な学び」を取り入れ、その学びを「協働的な学び」へと活かすといった一体的な充実を図った学習過程を研究し、子どもたちが「楽しかった。わかった。できた。」という達成感を得て、「次はこんなことを学びたい。調べてみたい。」という学びに向かう意欲を高められるよう、教材や場の設定の工夫を教職員で共有していく。

豊かな心・健やかな体の現状  
本校の児童は、係・委員会活動や清掃活動等で自分の役割に懸命に取り組み、縦割り班の活動では高学年が低学年が安心できるような声かけをする姿が見られる。一方で、令和5年度の各種調査の質問項目「自分にはよいところがある」では肯定率81%と、前年度から大きく上昇したとはいえ、子どもたちの言動からはまだまだ、自信のなさがうかがえる。そうした実態から、人権目標「自信をもって自己を表現できる子どもたちの育成」を基盤として、お互いを認め合いながら自己肯定感・自己有用感を高め、自分の思い・考えを伝え合えるような学級づくり・学校づくりをめざす。  
健やかな体の育成に関して、新体力テストの結果では、半数以上の種目で堺市の平均値を超えている。引き続き、体育の授業を中心に、課題のあった項目「握力」等の改善に向けて取り組んでいく。また休み時間に運動場で遊ぶ児童が少ない現状があるため、日々の生活の中で、運動が習慣化されるような働きかけを行っていきたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法 堺市学習・生活状況調査(1学期実施 3~6年生) 学校教育自己診断(2月実施 全年)	評価時期	進捗確認 (2学期)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	基礎基本の定着	文字の読み書きや計算等、基礎基本の学力の定着を図る。	校内学力チェックを各学期実施し、前年度の学習内容の定着を図る。	①校内学力チェック(漢字・計算)年度末正答率 +10pt以上	校内学力チェック	年度末	◎	①漢字は、年度当初(1年生は7月)から14~45pt上昇。計算は5~18p上昇。②96.4%①については、個人差が大きい。定着が難しい児童の状況に応じた個別対応を行い達成感を得ることで、意欲を高めたい。	A	①漢字は9~43p上昇。計算は5~19p上昇。個人差が大きいことが課題。 ②「はい」82%、「どちらでもない」9%、「いいえ」9%「いいえ」と回答した児童がいることを重く受け止める必要がある。児童の到達度の実態把握と基礎基本の学力の定着が課題である。	A	・基礎・基本の定着が必要ではあるが、時間の工夫が難しい。 ・校内学力チェックなど、継続した取組に意味があると思う。
			授業や補充学習を通して、基礎基本の学力の定着をめざす。	②「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてください」肯定的回答90%	堺市学習・生活状況調査 学校教育自己診断アンケート	年度末	○					
	授業力の向上	自分の考えを表現し、友だちと協働しようとする子どもを育成する。	授業において、子どもが、自分の考えを表現する場面を設定する。	③「授業では、自分の考えを書いたり、発表したりしていますか」の肯定回答率80%以上	学校教育自己診断アンケート	年度末	△	⑤国語46.4%、算数57.1%目標を大きく下回っている。まずは「わかって、楽しい」授業を行い、子どもの意欲を高める必要がある。	B	③「はい」73%⑥「はい」61%「どちらでもない」34%「いいえ」5% すべての項目で、目標を下回ってしまった。⑥については、前年度はいいえの回答が0%だったことを考えると、授業に楽しさを感じない児童が増えたといえる。学校生活の大半は授業である。その時間が子どもにとって、「できた！ やった！ 楽しかった！」と思える時間にするべく、学ぶ楽しさ、基礎・基本の定着に向けた取組や授業改善を努める必要がある。	B	・楽しさを追求することも大事だが、時には学びへ追い込むことも必要ではないだろうか。その結果、小さな達成感があるのではないかと。 ・子どもにとって何が必要であるかを感じ取り、よく準備された授業ができればいい。できていると思う。 ・安心して発言できるクラス集団、安心できる仲間づくりにつながるよう思う。
			授業において、ペアやグループ学習、全体での話し合いの場を設定するなど、協働的な学びの場を設定する。	④「授業では、友だちの考えを理解しようとして、自分の考えに活かそうとしていますか」の肯定回答率70%以上	学校教育自己診断アンケート	年度末			B			
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	学校が安全で安心できる場所であることを前提に、全ての教育活動を通して ・自己肯定感・自尊感情の向上 ・道徳性の発達 ・想像力の育成 を図る	●★授業で道徳的な価値について交流することを通して道徳的判断力を養い、学校生活の中で道徳実践に繋がるよう指導を行う。	⑦「相手の気持ちやその場の状況を考えて、自分の思いをもって行動している」⑧「学校のきまりやルールを守っている」肯定的回答 90%以上	堺市学習・生活状況調査	年度末	△	⑦63.1%⑧82.1%⑨58.3% ⑦については、問いの意味を理解できていない可能性がある。⑧については、児童の状況を鑑みると特定のルールについて守れていないのではないかと考えられる。いずれにしても、引き続き、道徳実践につながるよう指導していく。また児童が自分自信が持てるように、取組を行う。	B	⑨64.3%⑩「はい」87%多くの児童が教員に認められていると感じていることがうかがえる。今後も、児童の変容を見守り、認めることで、自己肯定感・自尊感情の向上へと導く。 ⑪「はい」86%「どちらでもない」14%「いいえ」0%と、目標は達成している。「いいえ」が0%と、教員と児童の信頼関係が築かれていることが感じられる。「はい」の回答率を増やしたい。	B	・縦割り班活動をよく計画しているが、素晴らしいと思う。学び合っていると感じる。 ・縦割り班活動は宮園小学校のよさを活かした取り組みだと思ふ。 ・自己肯定感の向上は、学校だけで育つものではないので、家庭との連携が必要だと思ふ。
			●人権教育の取組や、委員会活動や縦割り活動での異学年との関わり等を通し、他者と認め合う経験を重ね、自他を尊重できる心身の涵養を図る。	⑨「自分にはよいところがある」⑩「先生は、自分がしたことを認めてくれる」の肯定回答率85%以上	堺市学習・生活状況調査 学校教育自己診断	年度末	△					
	健やかな体の育成	運動する喜びを感じる体育的行事や体育の授業づくりを通して ・運動意欲の向上 ・体力づくりの促進 を図る	年間3回以上のいじめアンケートを実施し、迅速に対応する。また遅刻、不登校傾向の児童の減少を図る。	⑪「先生は、いじめなどわたしたちが困っていることに対応してくれる」の肯定回答率85%以上	学校教育自己診断アンケート	年度末	△	⑫1日10分以上の運動実施率 1学期末 74% 2学期末 70% 気候に影響され、運動実施率は低下する傾向にあるが、今後も健康チャレンジ週間やなわとび週間などの取組を通じて、体を動かす楽しさを感じさせたい。	A	⑫3学期末 約87% ⑬男子は48種目中24種目、女子は40種目中24種目が平均値以上だった。2学年下の平均値をいくつか記録している学年があり、課題。引き続き、日々の生活、遊びにもつながる運動遊びや運動を授業で取り入れる。	A	・体育参観では意欲的に体を動かす姿が見られた。 ・休み時間にもよく運動場で遊んでいる姿が見られた。
			運動意欲を向上させ、生活や遊びの中で体を動かそうとする児童を育成する。	⑬「外で体を動かすことは好きですか」の肯定回答率80%以上	健康チャレンジ週間集計結果 学校教育自己診断アンケート	毎学期			△			
地域協働	信頼される学校	地域、保護者へ学校情報の積極的な発信を行うとともに、校種間連携を強め、地域に信頼される開かれた学校づくりを進める。	学校HP・校報等を活用し、地域・家庭への教育活動の現状と成果の発信に努める。	⑮「学校は、教育活動の現状や成果の発信に努めている」の肯定回答率90%以上	学校教育自己診断アンケート	年度末	△	⑮HPについては、毎日各学年の記事を更新するように意識している。⑯異校種間交流は、こども園とは2年生児童が年長児と交流、深井中学校区では教職員が合同研修を行った。	A	⑯97% 多くの保護者が情報発信について肯定的にとらえてくれている。 ⑰こども園とは、2年生がおもちゃまつり、1・6年生が学校紹介や遊びで・6年生が、東深井小とは、5・6年生が連合運動会の練習を一緒にしたり、1・2年生がおもちゃまつりに参加したりと交流を	A	・地域や保護者に向けて、積極的に発信されている。 ・地域ともよく交流し、しっかりとつながっていると思う。
			●★宮園こども園、東深井小学校、深井中学校との交流や合同研修等を通して、課題の共有、課題解決に向けての具体的な取組を行う。	⑯「異校種間の交流、合同研修の機会年間5回以上	交流・合同研修の実施回数	年度末			○			

校長より(年度末)  
本校児童の実態から、特に自己肯定感の向上のための取組を行い、今年度は特に、学校全体で行う行事の際、活躍の場を意識的に設定した。自己肯定感にかかわる項目は昨年度と同程度であり、次年度以降も、学校全体として取り組むべき課題であるといえる。運動習慣では、今年度健康チャレンジ週間の取組が児童の生活にも継続され、冬季期間も運動場で体を動かす姿が増えたことは成果といえる。確かな学びにかかわっては、各種学力調査結果は依然として厳しい状況にある。子どもたちが無理なく、手応えを感じやすい取組を継続し、漢字、計算を中心とした基礎・基本の定着を図りつつ、個別最適な学び、協働的な学びに向けた授業を研究していきたい。

学校関係者評価者から(年度末)  
・全校児童数が少ないということもあり、異学年交流があるのがとてもよい。今年度は出前授業もたくさんあり、子どもたちも楽しそうだと感じた。  
・子どもたちの得手不得手を教職員がしっかりと把握し、得意なところを大いに伸ばす、苦手なところをできるように支援し、達成感を得ることができると、次の意欲へとつながるのではないかと。